

第2部-第2章. 欧米諸国における近代化

① イギリスの革命とアメリカの独立

<イギリスの革命と議会政治の確立>

- 1642 _____ ……王党派 vs 議会派の内乱
- 1649 国王を処刑し共和政に →指導者 _____ の個人独裁、アイルランド征服
- 1660 王政復古…しかし新国王も専制化、再び議会との対立激化
- 1688 _____ ……国王はフランスに亡命 →議会が前国王の娘メアリ2世と
その夫オランダ総督ウィリアム3世を新国王として招く
- 1689 _____ 制定…立憲君主政確立 = “国王は君臨すれども統治せず”
- 1714 アン女王死去 →ドイツ・ハノーヴァー家が新国王に →現イギリス王家の祖

<植民地をめぐる英仏の抗争>

- ▶ 北アメリカ
フランス (カナダからルイジアナ支配) vs イギリス (東海岸に13植民地建設)
- ▶ 七年戦争(1756-63、フレンチ・インディアン戦争)
…イギリスの勝利確定 →その戦費を13植民地への課税強化でまかなおうとする

<アメリカ独立革命>

- 1765 _____ ……イギリス議会での制定 ⇔ アメリカ植民地人の反発
“代表なくして課税なし” No taxation without representation
- 1773 _____ ……イギリス東インド会社に、対アメリカ茶貿易の事実上の独占を認める
↓ (インド支配に多額の経費を必要としていた同社への援助として)
_____ ……アメリカ植民地人がボストン港停泊中の東インド会社船を襲撃
- 1774 大陸会議…13植民地の結束
- 1775 独立戦争勃発…植民地軍総司令官 _____
- 1776年7月4日 _____ ……自由・平等、幸福追求の権利、圧政への抵抗
- 1783 パリ条約…イギリス、アメリカ独立を承認
- 1787 合衆国憲法 制定…大統領制、三権分立、連邦制国家 (独立した州の連合体)
- 1789 初代大統領ワシントン 就任

<啓蒙思想と市民社会の理念>

- ▶ _____ ……17世紀イギリス、「国家は人民の契約によって成立する」という考え方
_____ ……人権擁護という契約条件に反する政府に対して人民は抵抗権を持つ
→イギリス名誉革命を理論的に擁護、アメリカ独立宣言に影響
- ▶ _____ ……18世紀フランス中心、伝統的偏見・不合理な制度を理性によって批判する
ヴォルテール ……イギリスの議会政治を礼賛、フランスの旧制度を批判
_____ ……著書『法の精神』、三権分立を提唱
_____ ……著書『社会契約論』、人民主権、直接民主政を理想とする
→アメリカ独立、フランス革命

② フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け

<革命の始まりと人権宣言の採択>

- ▶ _____ (Ancien-regime、旧制度)・・・フランス絶対王政期の封建的身分制度
第一身分 (聖職者)・第二身分 (貴族)・・・免税特権などを持つ
⇔ 第三身分 (平民)・・・人口の 98%、うち 8 割が重税にあえぐ農民
- ▶ 国王 _____ (1774-92)・・・七年戦争およびアメリカ独立援助のため財政難
財務長官が「特権身分への課税」を図る → 貴族の反発をうけ三部会開催へ
- 1789 年 5 月 _____ 招集・・・特権身分代表と第三身分代表の対立
- 6 月 _____ 発足・・・第三身分代表が独立、「**球戯場の誓い**」
国王は議会弾圧のため軍隊動員
- 7 月 14 日 _____ 襲撃事件・・・パリ市民が圧政の象徴だった監獄を襲撃、武装蜂起
→各地で農民暴動もおこる →国王も議会と和解
- 8 月 4 日 国民議会、**封建的特権廃止宣言** (ただし封建地代は有償)
- 8 月 26 日 国民議会、_____ 発表・・・自由・平等、圧政への抵抗、国民主権

<革命戦争と共和政の樹立>

- 1791 年 9 月 9 1 年憲法・・・立憲君主制、一院制・財産制限選挙
- 10 月 _____ 招集
- 1792 年 4 月 革命への干渉を宣言したオーストリアに対して宣戦布告
→革命戦争勃発、しかしフランス軍はドイツ連合軍に苦戦
- 8 月 10 日 **テュイルリー事件**
ジャコバン派 (急進共和主義) が義勇軍を組織し
テュイルリー宮殿襲撃、国王逮捕、王権停止
- 9 月 男子普通選挙による _____ 招集・・・共和政宣言 (_____, ~ 1804)
- 1793 年 1 月 国王ルイ 16 世処刑 ⇔ 諸外国による第 1 回対仏大同盟 (~ 1797)
- 6 月 ジャコバン派指導者 _____、他派を排除し独裁確立 (恐怖政治)
- 7 月 **封建的特権の無償廃止 (封建地代廃止)**・・・多くの自作農が創出
農民にとってはこれで革命終了 →保守化し、恐怖政治を嫌う
- 1794 年 7 月 _____
穏和な共和派の巻き返し、ロベスピエールら逮捕・処刑
- 1795 年 10 月 _____ 成立・・・5 人の総裁、穏和な共和派による
下層民の支持も失い、急進派・王党派の双方からクーデタが頻発
→これに対処するため軍に頼る → ナポレオンの登場

<人権思想の展開>

フランス革命で参政権を得たのは財産・教養のある一部の男性市民のみ
グーリュ 『女性および女性市民の権利宣言』 →女性の人権・参政権は 20 世紀

<国民国家の理念の誕生>

国民を統一する道具・・・メートル法、革命暦、三色旗、ラ=マルセイエーズ

③ フランス革命の影響と国民意識の芽生え

<ナポレオンの登場>

- ▶ _____ (1769-1821) ……軍司令官として総裁政府の保護者的存在
1796-97年、イタリア遠征、オーストリアを破り講和 → 第1回対仏大同盟崩壊
1798-99年、エジプト遠征、イギリスとの海戦で敗北、フランス帰国
- 1799年11月 ブリュメール18日のクーデタ……ナポレオン、総裁政府を倒す
→ _____ 成立……ナポレオン、第一統領となる。
フランス銀行設立（財政整備）、国民教育制度 etc.
- 1804年4月 _____ (ナポレオン法典) 発布
私有財産不可侵、個人の意思の自由、契約の自由など
- 1804年5月 ナポレオン、国民投票によって皇帝に即位（_____）

<革命の輸出と英仏の争い>

- ▶ ナポレオンは軍事的にヨーロッパ大陸全域支配 ← 諸地域にも革命の理念に共鳴する動き
1806年 神聖ローマ帝国滅亡……ドイツ諸邦を従属させる
1808年 スペイン侵攻……例外的に苦戦（スペインには市民階級が成長していなかった）
- ▶ 大陸封鎖令(1806年)……各国にイギリスとの通商を禁止
イギリスに打撃を与えようとするも効果無し。ロシアは従わず。
1812年 ナポレオン、_____ 失敗
1813年 _____ の戦い……諸国連合軍にナポレオン敗北
1814年 ナポレオン退位、エルバ島流刑
1815年 ナポレオン、パリに戻り皇帝復位するも、_____ の戦いで敗北（百日天下）
→セントヘレナ島に流刑、1821年死去

<ウィーン体制の成立>

- ▶ _____ (1814-15) ……議長_____ (オーストリア外相のち宰相)
ヨーロッパ諸国代表が参加する国際会議
原則： 正統主義（ヨーロッパを革命前に戻す）
- ▶ _____ ……全ヨーロッパ的な保守反動体制、自由主義を抑圧
四国同盟……イギリス、オーストリア、プロイセン、ロシア
のちフランスも加盟して五国同盟に
神聖同盟……ロシア皇帝の提唱、イギリス以外の諸国加盟

<ラテンアメリカ諸国の独立>

- ▶ スペイン・ポルトガルもナポレオン支配下に
→ 両国の植民地だったラテン・アメリカ諸国で独立運動おこる
- ▶ _____ (植民地生まれの白人) が独立運動の中心
大農場（アシエンダ）を所有、植民地の富を奪う本国に不満
シモン・ボリバルらの指導のもと、1825年頃までにほとんど独立達成

※ハイチ（フランス領）……独立指導者：トゥサン・ルーヴェルデュール
1804年、ナポレオン政府から独立達成
中南米最初の独立、奴隷出身黒人による初の独立

④ 産業革命で変わる社会

<産業革命の背景>

- ▶ 18世紀、イギリスで始まった原因
 - ①. 絶対王政期(15c.末～)、第1次囲い込み
地主が小作人を追い出し羊を飼育し羊毛生産
元小作人は毛織物マニユファクチュアの賃金労働者に → 資本主義的生産様式
 - ②. 18c.～第2次囲い込み……
地主が小農民の土地を兼併、賃金労働者を雇って大農場経営
→土地を失った農民たちが都市に流入し工場の賃金労働者に
 - ③. フランスとの植民地獲得競争に勝利、国際貿易で商工業者たちが資本を蓄積
 - ④. 石炭・鉄鉱石などの地下資源、科学の発展

<産業革命の開始>

- ▶ 綿工業（紡績業、綿織物業）で始まった
 - ・イギリスによるインド植民地化、インド・キャラコ（綿織物）を輸入
→ 毛織物産業を圧迫、業界代表議員たちにより綿織物禁止法制定
 - ・洗濯可能で便利な綿織物の国内生産めざす、
→ 新興産業のため、新しい機械が次々と発明・導入される
- ▶ 動力革命……による蒸気機関の改良、水力などに替わる機械の動力源に
- ▶ 交通革命……蒸気船、蒸気機関車 → 鉄道の敷設

<資本主義社会の成立と出発>

- ▶ 社会
 - ・資本家（ブルジョワジー）……生産手段を所有、生産した商品を販売して利潤獲得
 - ・賃金労働者（プロレタリアート）……資本家に自らの労働力を売って賃金を獲得
- 1832年 イギリスで第1回選挙法改正……産業資本家が選挙権獲得
- ▶ 自由主義……産業革命を経た各国において、資本家による経済の自由と政治参加をめざす動き

<労働運動と社会主義運動の発生>

- ▶ イギリス 1833年 制定……9歳未満の労働禁止、労働時間1日12時間
1844年 十時間労働法
1838年～ チャーティスト運動……労働者が男子普通選挙等を要求
- ▶ 思想……資本家による生産手段私有を批判、生産活動の共同的な管理を主張
 - ・オーウェン（英）、サン＝シモン（仏）、フーリエ（仏）ら
社会主義実現の条件を宗教・道徳に求める → 空想的社会主義
 - ・、エンゲルス……1848年、『』発表
革命によって労働者政権を樹立し、社会主義経済の実現を目指す
 - ・『資本論』……マルクスの著書
資本主義経済が「資本家による労働者搾取」の体制であることを分析

※唯物史観……「すべての歴史は階級闘争の歴史である」
経済のあり方が社会の土台であり、生産関係（奴隷制、農奴制、資本主義…）における矛盾・対立こそが社会変化の原動力である。

⑤ イギリスの繁栄と国際分業体制

<世界市場の形成>

- ▶ 19世紀イギリス = _____
アジア・アフリカ諸国を市場・原料供給地に組み込む → 国際分業体制
- ▶ 世界市場の形成……19世紀には恐慌が頻発
「資本家は生産増大の一方、賃金は抑制。よって消費者の購買力が伴わず過剰生産になる」(マルクス)

<ヴィクトリア時代の諸改革>

- ▶ _____ 女王 (1837-1901)……二大政党による責任内閣制、議会制民主主義の発展
1867年 第2回選挙法改正……都市の労働者に選挙権
1884年 第3回選挙法改正……農業労働者・鉱山労働者に選挙権
- ▶ _____ 党・_____ 内閣
1870年 教育法 …… 公立学校による初等教育の義務化
1871年 労働組合法…… 労働者の団結権
- ▶ _____ 党・_____ 内閣……帝国主義政策推進

<大英帝国とその植民地統治>

- ▶ カナダ……イギリス領だが、フランス系住民の多い地域など、異なる特徴を持つ複数の植民地
1848年 各植民地に自治権付与
南北戦争の頃、アメリカ合衆国からの攻撃や併合の動き強まる
⇕
1867年 カナダ連邦成立……諸植民地の連邦としてイギリス帝国初の自治領になる
以後のイギリス植民地の自治領化のモデルに
→オーストラリア(1901)、ニュージーランド(1907)、南アフリカ(1910)
- ▶ 海底通信ケーブルの敷設……1851年 ドーバー海峡間、1858年 大西洋横断ケーブル

<国際分業体制の展開と世界の農業の変化>

- ▶ 欧米の農業
 - ・フランス、西部ドイツ……自営農中心
 - ・アメリカ……特に西部で機械による大規模農業発展
 - ・東ヨーロッパ……イギリスへの穀物供給地、イギリスの工業製品の市場
 - ・東部ドイツ(プロイセン)……グーツヘルシャフト
土地貴族(ユンカー)の封建的大農場経営
農奴制→19c.初頭、ナポレオン支配下で法的には廃止
- ▶ 農業における国際分業体制
 - ・熱帯・亜熱帯地域の植民地における _____ 農業
16世紀、砂糖・コーヒーの栽培
→ 交通革命により、欧米で砂糖入りのコーヒー・紅茶
 - 19世紀、綿花・天然ゴムなど、工業原料の生産も
 - ・ _____ 経済 ……アジア・アフリカなどで、欧米諸国向けの単一作物に依存
諸地域の自給自足的・伝統的産業が崩壊 → 経済的自立が困難に
↓
“南北問題”の原因